

ブルゴーニュ大学への協定留学 月例報告書 (1月分)

留学先大学：ブルゴーニュ大学

氏名：奥山海

はじめに

4ヶ月の留学を終え、今このレポートは日本で書いています。

旅行について - アヴィニオン編

1月13日から15日の二日間、南フランスのアヴィニオンに行きました。アヴィニオンは、かつてローマ教皇庁が移された場所で、「アヴィニオン歴史地区」として、世界遺産に登録されています。

私が留学している、ディジョンはアヴィニオンに比べて、ずっと北にあります。そのためか、アヴィニオンに到着した際、冬にもかかわらず、春を思わせる暖



友人らと、後ろに佇むアヴィニオン橋

かさを感じました。そして、南フランス特有の自然を見ることができました。例えば、樹木がニョキニョキと、うねるように生えていたり、ゴツゴツとした巨大な岩が、平然と街中に鎮座していたりと、アヴィニオンは、フランスの中でも、地域色が濃く出ている街だなと思いました。

フランス人にとって、アヴィニオンと言えば「アヴィニオン橋」を連想させるようです。アヴィニオン橋とは、ローヌ川に架かる石造りのアーチ橋で、「橋」といいながらも、対岸まで架けられておらず、「橋」としては機能していないという日く付きの橋です。この橋を、彼らフランス人に連想させるのには、彼らが小さい頃に「アヴィニオン橋の上で(Sur le pont d'Avignon)」という曲を習うという理由があるようです。実際に、アヴィニオン橋を訪れてみると、本当にアヴィニオン橋の上で「アヴィニオン橋の上で」を歌っているおじさまがいて、図らずも心和らぐ気持ちになりました。ちなみに、アヴィニオン橋の正式名称は「サン・ベネゼ橋」といい、かつては河の対岸まで架かけられていたのですが、幾度となく崩壊を繰り返すうちに、人々に修復を諦められてしまった橋だったのです。「諦め」も肝心なのですね。

学校・友だちについて

学校最終日は、「最終テスト」で終わりました。クラスメイトや担当の先生と別れるとき、「さよなら (Au revoir)」とは言わず、「またね (À bientôt)」と言い合ってお別れしました。そう言い換えることで、また会えるような気がしました。

この留学中、たくさんのお友だちができました。みなさん、本当に心やさしく、私に仲良く接してくれました。とある友人が、ふと私に言いました。「留学において、大切なことは『つながり』だと思う」と。私はそれを聞いたときから、そう思うようになりました。仮に、今後の人生の中で彼らに一度も再会できなくても、『つながり』をお互いに意識し合っていれば、いつだって彼らがそばにいてくれる、そんな気がしました。



お別れ会

さいごに

フランスでの日々は、あまりにも日本と違いすぎて、日本に帰ってきたとき、今までフランスで過ごしていた日々が、「夢」だったんじゃないかと錯覚してしまいそうになります。でも、だからこそ本当の「夢」みたいに忘れ、いつかは思い出せなくなってしまうまいやう、ずっと心に『つながり』を意識しながら、この素敵な思い出を留めておこうと思いました。

「寂しい」と思う気持ちは、帰国日が近づくに連れ、日に日に増して行きました。正直、留学が始まった最初の1、2週間は、ホームシックを感じて、日本に戻りたい気持ちが8割ほど自分の感情を占めていましたが、驚くことに今月ここにいる私というのは、フランスに戻りたいという気持ちが8割を占めています。このように、「寂しい」という気持ちを持てたのは、もちろん私の留学をご支援いただいた先生方、事務局の皆さま、親族をはじめ、留学中にサポートいただいた先生、仲良くしてくれたみなさんのお陰です。この場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

J'ai pu y passer d'aimables moments grâce à tout le monde qui m'a aidé et m'était gentil.

Merci beaucoup.